細野氏、原発処理水で提言

「放出 決断の時」

代る時返権り政振

旧民主党政権時代に首相補佐官や環境相を歴任して東京電力福島第1原発事故の対応に当たった細野豪志衆院議員（静岡5区）が4日、事故から10年となるのを前に日本記者クラブの会見にリモート参加した。当時を振り返りながら福島復興に向けた考えを提示。放射性物質のトリチウムを含む処理水の処分は「海洋放出を決断しなければいけない時期にきている」と述べた。

細野氏はこのほど出版した自著「東電福島原発事故　自己調査報告」を基に説明した。

処理水は海洋放出しても問題のないレベルと主張し「政府が責任を持って結論を出すべき。その上で風評被害が実際に生じた場合にどういう補償をするかの枠組みを議論した方がいい」と強調。中間貯蔵施設で安全性が確認された除染土の再利用、甲状腺検査の在り方の見直しも訴えた。

自著では事故収束のために奮闘した関係者らとの対談もまとめ、「原発事故の教訓が今も生きていることを伝えたく、この本を書いた。政策として成果が出るように全力を尽くしたい」とした。

（東京支社・関本豪）